

コンゴ（共）月報（2016年1月）

主な出来事

【内政】

●25日、与党コンゴ労働党（PCT）は、サス・ンゲソ大統領を次期大統領選の正式候補に指名。野党のオコンビ・サリッサ元大臣（IDC）及びチャチ・マビアラ第1書記（UPADS）も立候補を表明。

【外交】

●15日、ウイントフックで行われたC10会合に、ガコソ外務・協力大臣が出席。

【経済協力】

●12日、中国政府はポワント・ノワールに新たな港湾施設及び産業パークを建設することを発表。

●16日、仏開発庁からの400億FCFA（65百万ドル）の借款を承認

◎特にソースが明記されていない場合は、「Les Dépêches de Brazzaville」による。

【内政】

《新憲法及び2016年大統領選挙》

・10日、与党コンゴ労働党（PCT）は集会を開き、次期大統領選候補者のための資金集めを呼びかけ、党員に対し献金するよう求めた。

・12日、サス・ンゲソ大統領を支持するグループ「新共和国のための躍動（DNR）」のクリステル・サス・ンゲソ議員（サス・ンゲソ大統領の息子）は、サス・ンゲソ大統領の3月の大統領選挙への出馬を呼びかけるための集会を開催した。

・19日、3月20日の大統領選挙に向けた選挙人リスト更新のための委員が指名され、主に旧独立選挙委員会（CONEL）のメンバーが選出された。

・21日、与党コンゴ労働党ブラザビル支部は、サス・ンゲソ大統領立候補のため46百万FCFA（約7.7万ドル）を集めたと発表した。

・25日、与党グループのMCDDIは会合を開き、サス・ンゲソ大統領の立候補支持を決定した。ベルナール・コレラ代表が会見で発表した。

・25日、与党コンゴ労働党（PCT）は、サス・ンゲソ大統領を次期大統領選の正式候補に指名した。同日開催された党中央委員会で決定された。ンゴロ同党幹事長は記者会見で、党としてサス・ンゲソ現大統領には全幅の信頼を置いてお

り、最良の候補者選択であると述べた。また現下の地域情勢において、国民からも必要とされている人物であるとした。

《野党》

・9-13日、野党プラットフォームの Frocad 及び IDC は集会を開催し、次期大統領選への参加を決めた。ただし、実施に際しては、選挙委員会の独立性の担保、選挙人リストの改訂、仏語圏機構の技術支援、電子上での選挙人の照合、生態認証カードなどが必要との見解を表明した。また、野党政治家に対する警察の圧力を止めるよう求めた。

・27日、IDC と Frocad は国民に対し、選挙人登録を行うよう呼びかけた。現在、政府は選挙人リストの改訂を行っているが、なるべく多くの選挙人が登録されるよう動員を求めた。

・30日、IDC のアンドレ・オコンビ・サリッサ元大臣(元 PCT 所属)が大統領選への立候補を表明した。同氏は、技術教育大臣、スポーツ大臣、運輸大臣、社会保障大臣等を歴任した。野党からは複数の候補者を擁立する方向で調整している。

・31日、野党 UPADS のパスカル・チャチ・マビアラ第1書記が大統領選への立候補を表明した。

《議会》

・4日、臨時国会が開会し、大統領選挙に関連する選挙法改正案等が審議される予定。

・14日、下院にて選挙法改正案が可決され、独立選挙委員会(CNEI)の創設、投票用紙の改訂、立候補に係る供託金の引き上げ(約 3.8 万ユーロ)等が決定された。

【外交】

《年頭所感》

・11日、ガコソ外務・協力大臣は年頭所感において、コンゴ(共)の2016年の主な外交目標について、諸外国の協力を得つつ大統領選挙を実施すること、中アの安定を助けること、ボコハラムに代表されるテロリストを掃討すること、と発表した。

《安保理改革》

・15日、ウイントフックで行われたC10会合に、ガコソ外務・協力大臣が出席した。ガコソ大臣は現在の安保理の構成は歴史的不正義であるとし、改革の推進を主張した。

《軍事協力》

・19日、アダダ運輸大臣と米大使が会談し、海賊対策での協力継続を確認した。2004年以降、米国の海上保安庁が海上安全分野で協力している。

・22日、モンジョ防衛担当大臣は、中国大使と共にマリアン・ングアビ軍アカデミーの拡張工事現場を視察した。中国企業のBRCCにより工事が行われ、2016年7月に完了見込み。

《要人往来》

・18-20日、ガコソ外務・協力大臣はキンシャサを訪問、コンゴ(民)のカビラ大統領、チバンダ外務・国際協力大臣と会談した。2014年に不法滞在コンゴ(民)人を追放して以来悪化していた関係が改善しつつあり、両国間の要人往来も活発になっている。

《対アメリカ関係》

・22日、スリバン米大使はアントワネット大統領夫人と面会し、大統領選挙、プレスの役割等につき意見交換し、米国はコンゴ(共)の民主主義を支援するとした。

【経済】

《ガソリン不足》

・12日、チカヤ石油大臣は新年の挨拶で、ガソリン不足を解消すると約束した。コンゴ(共)のガソリン需要は産業の拡大のため2014年の約74万トンから2015年には約86万トンに増加(15.7%)しており、ガソリン不足の原因の一つとなっている。問題解決のため、5百万トン規模の新たな製油所の建設及びポワント・ノワールからブラザビル及びウエソをつなぐ石油パイプラインの建設を計画している。直近の計画では、既存の製油所の精製能力の拡大工事を2016年1月から開始予定。また、子会社COMILOGの石油貯蔵能力の拡大も目指す。

《アフリカ輸出入銀行》

・18日、上院はコンゴ(共)政府のアフリカ輸出入銀行への加盟を承認した。加盟により貿易の拡大を目指す。

《採取産業透明性イニシアティブ(EITI)》

・28日、EITI コンゴ(共)国内委員会は、EITI イニシアティブの対象として、森林・木材資源を追加すると発表した。コンゴ(共)の採取産業の中では、森林・木材資源は原油に次いで2番目の歳入源となっている。

《中小企業支援》

・29日、世銀は750の起業家のビジネスプランを検討し、選ばれたプランに対し50億FCFA(8.3百万ドル)規模の貸出を実施すると発表した。

【経済協力】

《韓国との協力》

・KOICA 事務所長は、ブラザビルを訪問し1700冊の本及び30台のPC、ビデオプロジェクターをマリアン・ングアビ大学図書館に寄贈した。同大学の学生数は3万人。

《中国との協力》

・12日、中国政府ミッションはポワント・ノワールに新たな港湾施設及び産業パークを建設することを発表した。本計画は、昨年12月の中国・アフリカフォーラムで発表した支援計画の具体化の一つ。ブヤ大規模事業団担当大臣及びマヴング経済特区大臣もポワント・ノワール訪問に同行した。

《仏との協力》

・16日、議会は仏開発庁からの400億FCFA(65百万ドル)の借款を承認した。AFDとコンゴ(共)政府は昨年7月に署名し、議会承認を待っていた。国営電力会社(SNE)のパフォーマンス向上のため仏国営電力会社EDFが送電網の改修等の技術支援を行う。本借款は15年かけて償還予定。

《キューバとの協力》

・19日、イボヴィ保健国民大臣は、キューバから来た18名の医師団と面会した。現在コンゴ(共)各地に2年の契約で配置されているキューバ人医師たちと交代する。本派遣は2013年6月20日に署名された二国間協力の枠組みによるもの。

・29日、保健省は国軍に所属する若手医師51人を研修のためにキューバへ派遣した。キューバとの医療・保健協力の一環。

《伊との協力》

・19日、伊の水産関係者がコンゴ(共)漁業・水産省を訪問し、水産協力事業の2016年度開始で合意した。

【社会】

・マコソ初等・中等教育大臣は、若手の大卒者 1000 名を雇用し、公教育施設で勤務させると発表した。本計画は、初等・中等教育省、国連、フランスボランティアの共同で実施される。コンゴ(共)は教員不足が長年問題となっている。

・19 日、国営放送テレコンゴは新たなチャンネル「Télé Congo Jeunesse」の創設を発表した。仏のメディア企業「Lagardère」が協力する。

(了)